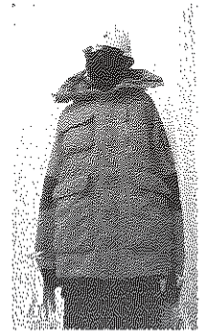




出発の日まで、あとひと月となりました。現在自宅には4ヶ月分の南極装備品が揃えられつつあります。極寒の地でも耐えられる高性能の防寒具などを試してみると、自ずと気分も盛り上がってくるものです。せっかくの機会なので、1階廊下に展示して、皆さんにも見て触れてもらおうと思います。装備品はお借りしているもの、支給していただいたもの、自分で購入したものが、厳しい自然環境の中で私の命を守ってくれるものです。大切に扱ってくださいね。

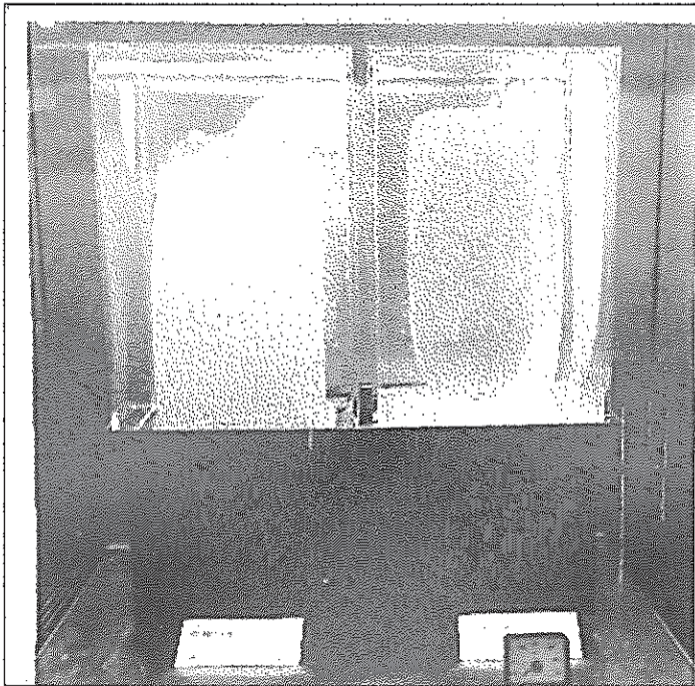


みんなで作る

南極通信

## 何が入っているかな？天然のタイムカプセル

夏休みの自由研究ノートより、『南極大解剖！』のコーナーも御覧くださいね！



南極の氷と日本で普通に作った氷の比較。左側が南極の氷で降り積もった雪がその重さでおしつぶされ氷になったもの。中に空気が閉じこめられているため、白く見える。氷の中には、起源の異なるさまざまな物質が含まれており、これらから雪が降り積もった当時の気候などを調べることができる。

この夏、私濱中も南極の氷が展示されているのを見て来ました。近くで見ると、氷の中には細かい気泡がたくさん含まれています。そっと手に取ってみると、氷が溶けて「パチパチ」と気泡がはじける音がします。なんと、この気泡は雪とともに閉じ込められた、数万年前の空気だそうです！まるで天然のタイムカプセルですね。この気体の分析により当時の地球環境が分かり、今後起こる環境の変化を知る手がかりがつかめるのだそうです。いにしへの南極は、いったいどのような風景だったのでしょうか？この雪の上を歩き、この空気を吸っていた生命がいたのでしょうか？そんな想像をしながら、太古の薫りを味わってみたのでした。

(この氷は、来年2月の南極授業の時に、附属中学校に届けられる予定です。実際に手に取って見る事ができるので、楽しみに。)

